

事務事業マネジメントシート(令和 4年度実績と令和 5年度計画)

令和 5年 6月23日更新

事務事業名		下水道汚水建設改良事業			<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	生活環境の健康		所属部	水道局	課長名	平田 政臣
	施策	20	水の安定供給と排水の浄化		所属課	下水道課	担当者名	橋本 静、山 辰、船 野
	施策の柱	61	排水の浄化		所属班	下水道班	(内線)	5284
予算科目	会計企業	款	項	目	事業連番	根拠法令	下水道法 合志市下水道条例	
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 4年度で終了 <input type="checkbox"/> 4年度から開始		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)				

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	公共による下水道の普及率を高めるとともに、生活環境の改善および公衆衛生の向上を図り、公共用水域の水質保全を目的として下水道管渠を整備する事業である。S52年に単独公共下水道、S58年に特定環境保全公共下水道、S59年に流域関連公共下水道の事業認可を受けて事業着手した。単独公共下水道は、平成27年度末に須屋浄化センターを廃止し、熊本北部流域下水道に接続した。平成27年度に市生活排水処理構想(10カ年計画)を策定し、未整備地区へ市設置型合併浄化槽による水洗化の促進を図ることとしている。 事業開始から30年以上経過し、下水道施設の老朽化が進んでいることから、国が定めた基準による長寿命化計画(5カ年)を策定し、国庫補助金を活用した施設老朽化対策を実施してきた。平成30年度から2カ年で国が定めた新たな基準による施設ストックマネジメント計画を策定しており、今後も国庫補助金を活用しながら、施設の老朽化への対策を実施する。
【業務の流れ】	下水道事業認可区域の管渠整備 ①測量設計委託契約②実施設計書の作成③道路占用申請④工事請負契約の締結⑤下水道管渠工事⑥しゅん工検査⑦支払事務 ストックマネジメント計画による改築更新 ①調査・点検②ストックマネジメント計画の策定(5カ年)③補助申請④実施設計⑤改築更新工事⑥しゅん工検査⑦支払事務⑧実績報告
【主な予算費目】	委託料、工事請負費、負担金
【意見や要望】	施設の維持管理メンテナンス業者から老朽化する施設の改築更新をすすめてほしいとの要望がでている。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 4年度実績(4年度に行った主な活動)(DO)	塩浸川浄化センター汚泥脱水設備更新の実施設計及び汚泥棟耐震補強の実施設計、すずかけ台中継ポンプ場耐震補強実施設計、マンホール蓋更新工事、マンホールポンプ場改築工事、管更生工事、ストックマネジメント計画策定に伴う調査及び点検、御代志土地区画整理事業に伴う下水道管渠築造工事、農集合生地区広域化実施設計、農集野々島地区改築実施設計などを行った。	5年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) すずかけ台中継ポンプ場耐震補強工事、マンホール蓋更新工事、マンホールポンプ場改築工事、管更生工事、ストックマネジメント計画策定に伴う調査及び点検、農集合生地区広域化工事、農集野々島地区改築工事、小池・大池・筒井マンホールポンプ場改築・耐震設計などを行う。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 箇所 ア 委託予定箇所数 イ 工事予定箇所数	予算の主な増減の理由 事業量の減に伴う委託料及び工事請負費の減
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	・公共下水道事業区域で整備した世帯 ・公共下水道事業区域の世帯からの生活雑排水	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位) 戸 ア 対象世帯数
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	・水洗化が進み排水が浄化され生活環境を改善する	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位) % ア 下水道放流水の水質基準達成回数/検査回数×100
*③成果指標設定の理由と5年度目標値設定の根拠 下水道管渠築造工事を行い普及率を高めることで、整備区域内世帯の水洗化が可能となるため。また、水洗化率の向上は排水の浄化につながり生活環境の改善となるため。		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度 0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	2年度 実績(決算)	3年度 実績(決算)	4年度 目標(当初予算)	4年度 実績(決算)	5年度 目標(当初予算)	6年度 予定	7年度 見込	8年度 見込
① 活動指標	ア 箇所		11	9	12	12	6	5	5	5
	イ 箇所		21	25	15	32	16	15	15	15
② 対象指標	ア 戸		45	28	50	30	50	50	50	0
	イ 戸									
③ 成果指標	ア %		100	100	100	100	100	100	100	0
	イ %									
投資 入費 量	国庫支出金	千円	180,330	205,180	202,895	64,950	57,000	159,000	159,000	159,000
	都道府県支出金	千円		3,500	5,150	5,401	42,922			
	地方債	千円	140,500	188,300	360,900	132,600	196,000	250,000	250,000	250,000
	その他	千円	121,729	108,879		106,175	52,032	30,000	30,000	30,000
	繰入金	千円	26,437		63,525					
	一般財源	千円								
入費 量	(A) 事業費計	千円	468,996	505,859	632,470	309,126	347,954	439,000	439,000	439,000
	(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	(A)のうち時間外、特別	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
人件 費	正規職員従事人数	人	10	10	10	6	10	10	10	10
	延べ業務時間	時間	2,892	2,725	2,300	2,730	2,300	2,300	2,300	2,300
トータル コスト(A)+(B)	(B)人件費計	千円	11,403	10,654	9,163	10,390	9,163	9,163	9,163	9,163
	トータルコスト(A)+(B)	千円	480,399	516,513	641,633	319,516	357,117	448,163	448,163	448,163

事務事業名	下水道汚水建設改良事業	所属部	水道局	所属課	下水道課
-------	-------------	-----	-----	-----	------

## 2 評価の部 (CHECK)

\*原則は4年度の事後評価、ただし複数年度事業は4年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 4年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した 予定していた事業を実施することが出来た。	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	② 5年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 下水道放流水の水質基準の確保のため向上の余地なし。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 類似事業はなく、他の手段においても本事業の成果を向上させることは不可能である。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 管渠工事については、工事請負費、委託料(実施設計)であり、国庫補助金の活用や可能な限り集約して競争入札により工事発注を行いコスト削減を行っているため、事業費の削減余地はない。
	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 下水道整備(新規管渠等)は残りわずかではあるが、今後は雨水対策および老朽管路等の対策を行う必要がある。人件費の削減については、職員が他の事業と兼務で業務を行っていることから、削減の余地はない。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 応分の受益者負担があり適切である。 (受益者負担金: 330円/㎡※上限額措置あり)
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 下水道管渠整備事業は環境保全のための社会資本整備であり、行政が行うべき事業である。

## 3 評価結果の総括 (CHECK)

市生活排水処理構想に基づき計画的な整備を行うこととしており、管渠整備事業に関しては今後も整備率100%を目指して事業を進めていく。

## 4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

<p>(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (公平性改善)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策</p>																						